

愛媛県がん診療連携協議会
「がんの集学的治療専門部会」議事録
2020/11/26 Web 会議 18 時～18 時 45 分

1. 薬剤師レジメン管理の取り組みについて

四国がん 亀岡

愛媛県内の保険薬局を対象に薬薬連携のアンケートをおこなっている。9月28日から開始しており、当初1か月の予定であったが、回答数が伸び悩んでいたため11月30日まで延長して受付中。愛媛県薬剤師会等にアナウンスをおこない、収集している。現在、525名の先生よりご回答頂いている。内容は、10年前におこなったアンケートとほぼ同様であるが、新設された特定薬剤管理指導加算についての項目を、追加している。締め切り後の12月以降に、集計、サブ解析を行い、次回の専門部会での報告を予定している。

2. 薬剤師レジメン管理の取り組みについて

松山日赤 村上先生

免疫チェックポイント阻害剤によるirAEのマネジメントについて、薬局、開業医を含めた地域連携によるチーム医療が必要ではないかと考える。今回、当院での取り組みおよび愛媛県下での連携の構想について、紹介したい。具体的には、1)お薬手帳の活用。レジメンシールを利用して、免疫チェックポイント阻害剤の治療であると薬局に情報提供する。2)irAE管理の間診票の活用。院内で使用しているirAE管理の間診票があるが、薬局で使用できるよう改良中。3)irAE情報提供書＝トレーシングレポートの活用。保険薬局の薬剤師が得た情報(緊急性は低いものの薬剤師が医師に伝えることが必要と判断した内容)について処方医に伝える文書について、県内で統一した形にできないか。これらについて検討し、当院と保険薬局とで取り組みを開始したいとはじめたばかりである。将来的には地域で取り組めたらよいのではないかと考える。

<愛媛大学より>副作用マネジメントのアプリを独自に開発して院内で使用している。患者による自己申告制で身長・体重や痛み等の必要項目についてアプリから状況を報告してもらい、それらを中央で管理し、介入が必要な場合にはアクセスできるようなシステムである。そういうものと組み合わせるといのはどうか。アプリについては、次回以降に紹介したい。

3. 愛媛県でのがんゲノム医療について

ゲノム情報を用いたスクリーニングシステムの現況

四国がん 仁科

がん遺伝子パネル検査について、組織だけではなく、リキッドバイオプシー(血液)による検査でスクリーニングが行える消化器がんの SCRUM JAPAN を県内施設で登録可能になるよう連携プロトコールを作成している。組織検体によるスクリーニング研究では、拠点、推進病院の先生方に協力を頂いてすすめていたが、血液検体では各施設で検体送付の作業が発生し、それらがかなり煩雑になるため、まずはゲノム連携病院の先生方に協力して頂きながらすすめたいと考えており、該当の施設の先生方に打診中である。治験に入れるか否かのスクリーニングとなるため、保険診療の検査で結果が得られた場合の治験の登録スクリーニング検査として活用していくよう

な連携をすすめていきたい。愛媛県下で遺伝子解析に基づいた治療を行える体制作りについて、今後ともご協力をお願いしたい。

4. CSTDコアリングの調査まとめの進捗について

愛媛大学 薬師神先生

CSTD によるコアリング研究について、点滴セットのフィルターに数種類の物質、金属、ゴム様物質、樹脂等が認められ、愛媛県の施設に協力を頂いてデータ収集し、解析をおこなった。英文論文を作成しているが、共著者名としては、各施設1名ずつの先生方にご協力をお願いしたい。

5. HD 曝露対策の進捗報告

四国がん 青儀

HD 曝露の体験セミナーを毎年12月に開催しており、愛媛県下の各施設にお声かけをしているが、今年はコロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、中止とさせて頂いた。メーカーからWebセミナーの提供をして頂けるので、後日ご案内する。HD曝露調査を年1回の頻度でおこなっているが、今回は、次亜塩素酸＋酸性水でできた曝露物質除去水を使った調査について、1月から2月ぐらいに実施予定としているので、ご協力をお願いしたい。HD 曝露対策の1年前と1年後の比較についてデータ収集をさせて頂いたが、がん集学的治療専門部会におけるPDCA活動として結果をまとめて、12月5日の専門部会報告会の場で、報告をさせて頂く。

6. 紹介の簡略化、コロナウイルス感染症対策について

四国がん 青儀

愛媛大学の薬師神先生より提案頂いていた病院間での紹介の簡略化について当院の放射線部門に相談したところ、前向きな回答を得られたので、クオリティを保ちながら必要最小限のデータで申し込みができるような新しいシステムを作っていきたいと考えている。次回の部会で提案できるようにしたい。また、日赤の白石先生より、コロナウイルス感染症の影響で自施設において化学療法ができない状況がおこった場合に、愛媛県内の連携で他の病院での受け入れができるような体制について提案を頂いており、そういったシステムの構築についても検討したい。